

## Ⅸ 協働・普及啓発

### ○ 実施概要

#### 1 背景

丹沢大山の自然再生に向けて、県民協働による自然再生活動や調査研究、環境学習、普及啓発を推進するため、県はこれまで、様々な団体や企業、市町村等と連携し、「丹沢大山クリーンピア21※1（以下「クリーンピア」という）」や「丹沢の緑を育む集い実行委員会※2（以下「緑を育む集い」という）」などに参加するとともに、ボラネットを通じて、活動団体への支援・協力を行ってきた。

※1	クリーンピア	丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミ持ち帰り運動を推進することを目的とし、企業、各種団体および行政機関等の協力により設立され、賛助会員、ボランティア会員(団体)、行政機関会員で構成される。
2	緑を育む集い	丹沢大山地域で植樹事業やウラジロモミ等をシカの影響から守るための防護ネット設置事業などを協働で行っている各種団体および行政機関で構成されている。

#### 2 施策の基本方向

##### (1) 第1期自然再生計画

クリーンピアや緑を育む集い等に参加するとともに、ボラネットを通じて活動団体への支援・協力をを行うほか、新たな協定に基づく協働事業、パークレンジャーや公園指導員等との連携、自然再生に関する情報の蓄積と発信などに取り組む。

##### (2) 第2期自然再生計画

活発化してきた丹沢大山自然再生委員会（以下「再生委員会」という）の普及啓発事業等を新たに丹沢大山自然再生計画（以下「再生計画」という）に位置付けるとともに、引き続き、団体、企業、市町村等との連携による自然再生活動を進める。

また、県民協働や普及啓発の拠点として、保全センター及びビジターセンターの展示施設の充実と活用、丹沢大山自然環境情報ステーション（e-Tanzawa）※（以下「e-Tanzawa」という）を活用した自然再生に関する情報の蓄積と発信を行う。

※	e-Tanzawa	保全センターのホームページのうち、丹沢大山の自然再生の取組みに関する情報を掲載しているページ。
---	-----------	---

#### 3 第2期自然再生計画の主な取組と成果（概要）

##### (1) 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

- ・ 県とサントリーホールディングス(株)の協定(平成21年12月)に基づき実施しているサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト※の実施にあたって、技術・知見の提供などを行った。
- ・ 再生委員会と県総合教育センターの共催による教員研修に職員を講師として派遣した。
- ・ 県高校体育連盟主催の「夏山情報交換会」において、高校生を対象に自然再生の取組を紹介するとともに、同連盟と再生委員会、NPOの共催による登山道補修体験を実施した。

※	自然再生プロジェクト	再生委員会の構成員が単独又は連携して、丹沢大山自然再生基本構想に則って取り組む自然再生事業を、自然再生プロジェクトとして登録し、プロジェクトの順応的な実施を図るもの。
---	------------	---

## (2) 県民協働の枠組みを通じた連携

- ・ 県民協働によるクリーンピアや緑を育む集いに参加するとともに、ボラネットの活動を支援したほか、秦野市や一般のボランティア等と協力して山頂廃屋等の山ゴミ撤去を実施した。

## (3) 丹沢大山自然再生の順応的实施と協働・普及啓発の拠点づくり

- ・ 自然観察等の指導者（「かながわフィールドスタッフ」（以下「フィールドスタッフ」という））に対する研修会を開催するとともに、自然環境保全センターの展示室、野外施設を活用した県民向けの自然観察会等を通じて、自然環境の保全に関する普及啓発と、保全活動等を実践してもらおう契機とした。

※	フィールドスタッフ	保全センターが自然環境保全を目的として設置した、フィールドスタッフの養成研修を修了したボランティアで、自然観察を基本に環境学習等を展開している。
---	-----------	--

## (4) 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

- ・ e-Tanzawaを含め、保全センターのホームページをリニューアルするとともに、第2期再生計画のパンフレット等を作成した。

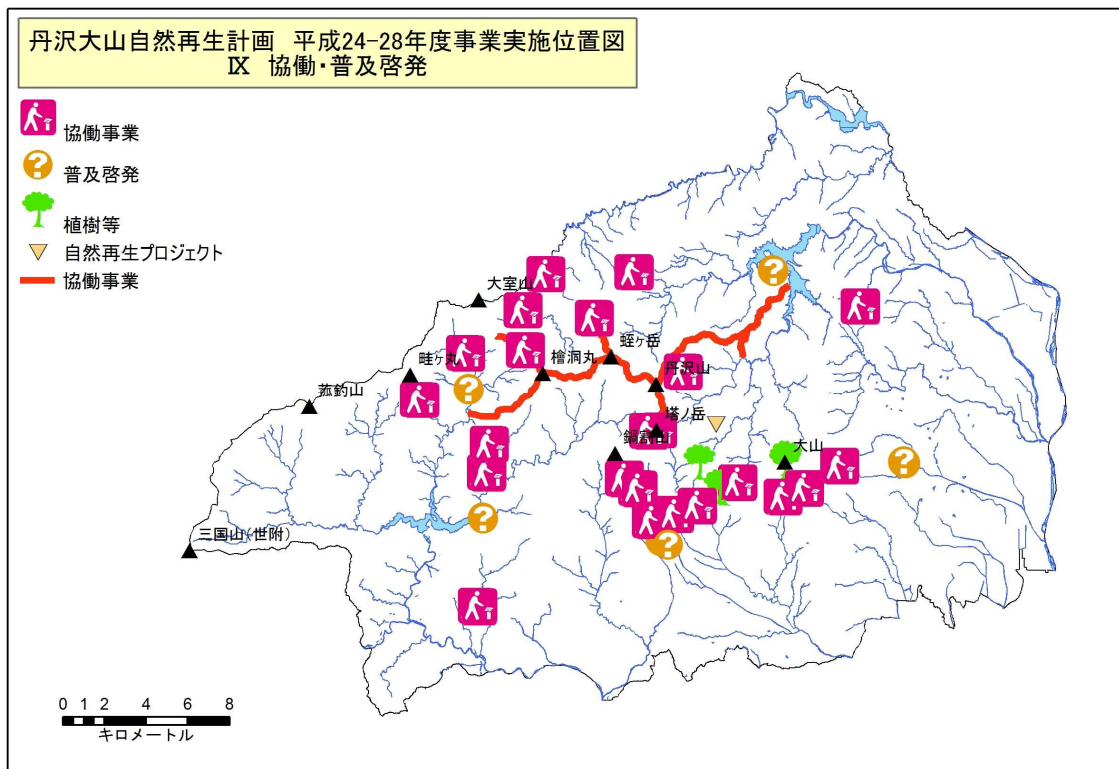


図9-1 事業実施位置図（特定課題Ⅹ 協働・普及啓発）

## ○ 主要施策ごとの事業実施状況

### 1 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

#### ① 自然再生プロジェクトの推進

##### 【事業内容】

再生委員会の構成員が、自ら取り組む「自然再生プロジェクト」について、技術・知見の提供、再生計画と実施事業の調整等、計画的な自然再生活動に協力する。

##### <実施状況>

県とサントリーホールディングス㈱が協定に基づき実施しているサントリー「天然水の森丹沢」自然再生プロジェクトの実施にあたって、技術・知見の提供を行い、本プロジェクトの目標や取組内容をまとめたプロジェクトビジョンを平成26年度に作成した。また、植生保護柵の設置や人工林の混交林化、モニタリング（動植物調査、土壌調査）など具体的な取組をまとめた5ヶ年計画（H26～H30）を作成し、このうち植生保護柵の補修や動植物調査、土壌調査等を実施した。



写真9-1 土壌調査の様子[清川村煤ヶ谷地内]



写真9-2 植生保護柵補修を行った箇所  
[清川村煤ヶ谷地内]

#### ② **重点**団体等との協働による丹沢再生の普及啓発

##### 【事業内容】

再生委員会と構成員の企業や団体が共催で行う自然再生活動等の普及啓発の取組に参加するとともに、技術・知見の提供などを通して協力し、県民協働の取組を進める。

##### <実施状況>

###### ア 丹沢フォーラム

NPO法人丹沢自然保護協会(以下「自然保護協会」という)、緑を育む集い、再生委員会の共催により、毎年実施している「丹沢フォーラム※」に職員を講師として派遣し、県の取組状況を説明するなど、自然再生の取組について普及啓発を行った。

※ 丹沢フォーラム 一般市民を対象にし、わかりやすく自然環境保全の普及啓発を行う、自然保護協会、緑を育む集い、再生委員会共催のイベント。

(参考)丹沢フォーラムの実施状況

(単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者	96	68	65	90	55



写真9-3 丹沢フォーラム（堂平）の様子

#### イ 森林探訪

丹沢大山地域の森林を散策しながら、森林の機能等を理解してもらうため、NPO法人かながわ森林インストラクターの会が長年実施してきた「森林探訪」を、平成28年度から再生委員会の共催とし、活動に対する技術・知見の提供を行った。

(参考)森林探訪の実施状況 (単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者					48

#### ウ 再生委員会による活動

再生委員会が参加する各種イベントや自らが主催する丹沢大山自然再生活動報告会の広報等に協力するとともに、再生計画の取組状況などを紹介した。



写真9-4 丹沢大山自然再生活動報告会での  
県の取組紹介の様子[厚木市]

### ③ F S 学校教育との連携等による環境学習の推進

#### 【事業内容】

学校教育と連携して行う教員研修や環境学習として、再生委員会と構成員の団体が共催で行う「自然再生の担い手づくり」に協力する。

#### <実施状況>

##### ア 教員研修への協力

自然再生の取組に対する理解を深めてもらうため、再生委員会と県総合教育センターの共

催により、県内の小・中・高・特別支援学校を対象とした教員研修を開催し、職員を講師として派遣した（平成21～25年度）。研修は、人工林整備やシカの管理捕獲を実施した現地で行い、職員が森林の手入れや土壌保全などの取組を説明した。

(参考)教員研修の実施状況 (単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者	18	17			



写真9-5 教員研修の様子[清川村煤ヶ谷地内]

#### イ 丹沢やまみち再生体験

平成21年度から県高校体育連盟が主催している「夏山情報交換会」で、県内高校の登山部に所属する生徒を対象に、職員が自然再生の取組を紹介した。

また、高校生を対象に、同連盟登山専門部、NPO法人みろく山の会、再生委員会が共催で登山道補修体験を実施しているため、これに対し資材等の提供を行い、ぬかるみ対策などを通して自然公園の適正利用等について、考える契機としてもらった。

(参考)丹沢やまみち再生体験の実施状況 (単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者	31	46	43	54	48



写真9-6 高校生による登山道補修体験の様子  
[大倉尾根登山道]

#### ウ 森の学校

自然保護協会が小中学生を対象に長年実施してきた「森の学校」を平成27年度から再生委

員会との共催とし、自然体験や調査等を通して自然の仕組みについて知ってもらうとともに、自然再生の必要性について考える契機としてもらった。

(参考) 森の学校の実施状況

(単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者				97	124

※春・夏・冬の学校の合計



写真9-7 森の学校（夏の学校）の様子  
[清川村煤ヶ谷地内]

#### ④ 自然再生委員会ホームページ等による情報提供・広報

##### 【事業内容】

再生委員会ホームページ等による情報発信については、e-Tanzawaとの相互リンクも含め連携を進める。

##### <実施状況>

再生委員会のホームページにパークレンジャーによる自然情報等を提供したほか、新たにタブレット端末やスマートフォンへの対応、SNSでの発信、e-Tanzawaとの相互リンクも行い、自然再生の取組について、より一層幅広く県民への普及啓発を行った。

(参考) 再生委員会ホームページアクセス数

(単位：件数)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
件数	26,173	19,392	19,182	30,591	26,902



図9-2 再生委員会ホームページ (<http://www.tanzawasaisei.jp/>)

## 2 県民協働の枠組みを通じた連携

### ⑤ **重点**丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い、丹沢大山ボランティアネットワーク等による連携・協力

#### 【事業内容】

クリーンピア、緑を育む集い、ボラネットなどによる植樹、防護ネット設置、森林整備、美化活動などの県民協働の取組に引き続き参加するとともに、パークレンジャーや公園指導員及び団体、企業、市町村等との連携を図る。

#### <実施状況>

##### ア 丹沢大山クリーンピア21

丹沢大山国立公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図るため「ゴミの持ち帰り運動」を推進し、丹沢大山クリーンキャンペーン※や構成員であるボランティア会員(団体)による清掃活動を実施した。

※	丹沢大山クリーンキャンペーン	毎年10月から11月に相模原市、厚木市、伊勢原市、秦野市、清川村、山北町、松田町の各市町村会場を中心に実施される普及啓発と清掃活動
---	----------------	---

(参考)丹沢大山クリーンキャンペーン実施状況 (単位：団体、人、kg)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
団体	137	124	119	107	108
参加者	3,935	4,188	4,137	4,935	4,025
収集量	3,579	3,345	2,739	4,248	2,213

(参考)ボランティア会員による清掃活動状況 (単位：団体、人、kg)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
団体	12	13	11	11	12
参加者	2,157	2,158	1,960	1,471	1,896
収集量	6,160	1,478	2,137	3,901	4,753



写真9-8 丹沢大山クリーンキャンペーンの様子  
[秦野市]

## イ 丹沢の緑を育む集い実行委員会

緑を育む集いにより、植樹やウラジロモミの防護ネット設置等を実施した。



写真9-9 大山北尾根での植樹活動の様子

(参考)防護ネット設置等実施状況

(単位：人、本)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者	43	27		21	15
(設置)	23	0			
(補修)	132	105		178	66
(撤去)	0	23		0	8

## ウ 丹沢大山ボランティアネットワーク

ボラネットの活動を支援した。ボラネットの活動内容についてはⅧ-1-⑤に記載のとおり。

## エ 山ゴミ対策

「山岳ゴミの処理方針※」を策定し、ボランティア団体、行政の連携により日の出山荘や伊勢原市日向の大型ゴミ等を解体撤去した。

※	山岳ゴミの処理方針	実施期間を5年間(平成24～28年度)とし、県、市町村、ボランティア団体が連携し、それぞれの役割分担を決めたうえ、①過去に山小屋等の周辺に埋設されたゴミ、②山小屋等の廃屋、③登山道周辺に放置された建設廃材等の大型ゴミの処理を実施
---	-----------	--

## 3 丹沢大山自然再生の順応的实施と協働・普及啓発の拠点づくり

### ⑥ 神奈川県自然環境保全センターの充実と自然再生活動への活用

#### 【事業内容】

保全センターの野外・展示施設を自然再生活動の体験実習フィールドとして位置付けるなど、県民協働による自然再生活動やモニタリング、調査研究、環境学習の拠点としての機能を高め、自然再生をめざす団体・企業等による活用を促す。

#### <実施状況>

保全センターの展示・野外施設を活用した県民向けの観察会やクラフト教室、自然発見クラブ等を通じて、自然再生活動を実践する契機としてもらうとともに、フィールドスタッフの活動を支援する研修会を開催した。



(参考)観察会実施状況 (単位：回、人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
回数	79	75	80	80	89
参加者	1,300	1,355	2,219	1,795	1,972

(参考)自然発見クラブ実施状況 (単位：回、人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
回数	4	4	4	4	4
参加者	91	94	121	84	85

(参考)フィールドスタッフ研修会実施状況 (単位：回、人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
回数	9	8	9	9	9
参加者	295	256	265	243	226

このほか、自然再生活動を実践するボランティア団体が野外施設を活用して実施する調査研究、大学生等の研修、近隣地域の教育委員会を通じた小学校の環境学習の受入等、施設の活用を促進した。

(参考)保全センター利用状況 (単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
利用者	27,452	22,452	28,708	24,424	22,524



写真9-10 野外施設における観察会の様子  
[厚木市七沢地内]



写真9-11 研修会の様子[厚木市七沢地内]

## ⑦ 神奈川県立ビジターセンターの充実と自然再生活動への活用

### 【事業内容】

再生委員会の協力を得ながら自然再生に関する企画展示や自然教室等を開催するとともに、各地域で環境学習や自然再生活動を行っている団体等が、地域に密着した拠点として利用しやすいよう施設の充実と活用を図る。(関連Ⅷ-3-⑧)

### <実施状況>

Ⅷ-3-⑧に記載のとおり。

#### 4 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

##### ⑧ 自然再生情報の提供と丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)の機能拡充と活用

###### 【事業内容】

自然環境の現状や自然再生の取組に関する情報を整備する。また、県民向けのパンフレットや、事業の実施状況報告書等を作成する。さらにこれらをe-Tanzawaで情報発信を行うとともに、再生委員会のホームページとの連携を図る。

###### <実施状況>

###### ア 情報整備とe-Tanzawaの活用

より適切な維持運営が行なえるよう保全センターのホームページとe-Tanzawaを統合し、それぞれ連携して情報発信を行うことができるようにした。また、各事業の位置情報を整理し、一元管理できるようにした。

これにより、自然再生の取組状況など最新の情報を速やかに提供するとともに、事業間の横断的なデータの利用が効率的に行なえるようになった。

(参考)ホームページのアクセス状況

(単位：件)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
保全センター	176, 976	214, 255	249, 782	284, 874	293, 612
e-Tanzawa			3, 169	10, 435	9, 307



図9-3 e-Tanzawa (<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f48/>)

## イ 県民向け情報提供

第2期計画やシカ管理の経緯や取組を県民へ分かりやすく解説したパンフレット等を作成するとともに、第1期計画の実績と成果等を取りまとめた実施報告書を作成した。



図9-4 県民向けに作成したパンフレット（左：第2期計画 右：シカ）

## ○ 第3期計画の実施について

### 1 第2期自然再生計画の課題

将来にわたって県民協働による丹沢大山の自然再生を進めていくため、再生委員会等と連携を図りながら、人材育成も視野に入れた県民協働について検討しつつ、これまで実施してきた取組を継続していく必要がある。

### 2 第3期自然再生計画の施策の基本的な方向性

再生委員会との連携やこれまでの取組を継続するとともに、新たな取組についても検討を進める。また、保全センター及びビジターセンターを自然再生活動に係る県民協働と普及啓発の拠点として活用するとともに、再生委員会のホームページやe-Tanzawaを活用して、自然再生に関する情報の蓄積と発信を行う。

#### <主な構成事業の実施区分の見直し>

- ◆ 「③学校教育との連携等による環境学習の推進については、教育委員会の方針により、平成25年度で教員研修が終了したため、再生委員会の新たな事業等により、引き続き人材育成の推進を行っていく必要があることから、FS事業で継続する。
- ◆ 「④再生委員会ホームページ等による情報提供・広報」、「⑧自然再生情報の提供とe-Tanzawaの機能拡充と活用」については、相互連携を図る必要があることから、「e-Tanzawaの活用」として統合し、一般構成事業として継続する。

### 3 第3期自然再生計画の主要な施策

#### (1) 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

- ・再生委員会の自然再生プロジェクトに対し、技術・知見の提供、再生計画及び関連事業との調整等を行うこととし、その一つとして、サントリー「天然水の森 丹沢」に係る成果の広報や次期5か年計画の検討を含め、引き続き連携を図りながら取組を進める。

- ・再生委員会が構成員等と連携して実施する「丹沢フォーラム」や「森林探訪」など自然再生に関する普及啓発や人材育成等の取組に参加するとともに、幅広い団体や企業等による自然再生の取組を支援する。
- ・再生委員会が学校教育等と連携して行う体験学習等への技術・知見の提供や、環境学習を行う団体等との連携による自然再生の担い手づくりに協力する。

## (2) 県民協働の枠組みを通じた連携

- ・クリーンピア、緑を育む集い、ボラネットによる清掃活動、植樹、登山者数調査など、協定に基づく活動に協力するとともに、再生委員会と連携を図りながら、新たな協働の取組の検討を進める。（関連Ⅷ-(2)-①）

## (3) 協働・普及啓発の拠点の活用

- ・保全センターの野外施設及び展示施設を自然再生活動の体験実習フィールドとして機能を高め、県民協働による取組や環境学習の拠点として、自然再生活動に取り組む団体や企業等による活用を促進する。
- ・ビジターセンターと保全センターの一層の連携を進め、環境学習や自然再生活動を行っている団体等の活動拠点として活用を図る。（関連Ⅷ-(2)-②）

## (4) 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

- ・蓄積した自然環境の現状や自然再生の取組に関する情報を、より一層分かりやすく県民に提供できるようe-Tanzawaと再生委員会のホームページの連携を図りながら、情報発信を進める。